



学生番号:14106377	クラス:K	氏名:豊沢 泰輝	提出日:2010 年 1 月 13 日
論題	品質評価の偏在 ～生産履歴情報の処理について～		

【 キーワード 】 生産履歴情報、ヒューリスティック、シグナリング、知覚品質、製品判断力、購買関与、情報経済

【 論文要旨 】

本論文は、製品の生産履歴情報の処理、特にそこから知覚される製品の品質に対する、消費者内部の知識や関与といった要因の働きについて解明を試みた。

2000 年台前半、食品企業の不祥事が相次ぎ、消費者の食の安全に対するニーズが高まりを見せていることは論を待たない。そして、そうした社会的要請に呼応し、企業は生産履歴にまつわる情報を開示し、消費者の信頼を得ることを狙う。なお、本論文は、このような背景を受け、その品質への関心の高まりを見せた「食品」を対象に議論を進めている。

一方で、コモディティ化を背景に製品の評価に関わる情報は複雑化していることが指摘できよう。したがって、生産履歴にまつわる情報の理解はますます困難なものとなっていることが推測される。そうした状況下で、単純な情報処理方略に頼りがちな消費者が、生産履歴情報の呈示を受けた場合、いかなる処理を経て、いかなる帰結をみせるであろうか。

本論文では、この問題について実証的な検討を行った。

その結果、製品判断力の低い消費者は高い消費者よりも、推論的に品質を評価し、また、生産履歴情報の処理はその品質評価を高品質方向へ歪曲させた(仮説1)。また、購買意思決定に関する関心・心配の度合いである購買関与度で検討を試みた結果、購買についてこだわりたいというニーズと、品質を高めるこだわりとして推測される生産履歴情報との知覚的な一致により、購買関与度が高い消費者が低い消費者よりも生産履歴情報からの推測で高品質に偏りやすいことが明らかとなった(仮説2)。